

石和第一保育所の建設の基本的な考え方について

1 はじめに

石和地区には、4 か所の保育所、4 か所の認定こども園及び1 か所の小規模保育所がある。

石和第一保育所は、笛吹市個別施設計画において、令和7年度改築の計画となっている保育所である。

石和第一保育所の園舎は、昭和51年度に建築され、現在46年が経過し老朽化しているため、建て替える必要がある。

建替え場所として、石和町八田178番地の県有地を令和5年度に購入している。

園舎については、保護者の多様なニーズ及び国の動向に対応できるよう「多機能保育所」となるような施設を検討する。

令和6年度当初予算に設計委託料を計上している。

2 石和第一保育所の建設ビジョン

(1) 現在の利用定員と同様に、定員を90人規模とする

笛吹市内の未就学児の人口は減少するも、石和地区の保育園の需要は横ばいと予測する。

(2) 「多機能保育所」の考え方

現在の石和第一保育所の運営形態に、令和7年度から始まる誰でも通園制度に対応するためのスペースが設置できるような施設を検討する。また、ハザードマップに対応し、災害時に建物2階へ避難できる場所の確保を行うなど検討する。

(3) 経済性を追求した施設

建設事業費はもとより、外観や屋根の形状などがシンプルであること、LEDによる照明など、メンテナンスやランニングコストが削減できることを前提とした施設になるよう検討する。

(4) 安全性への配慮

敷地南側には、開渠の水路が隣接し、宿泊施設も近く、大きく周辺環境が変わる。保護者が安心して子供を預けられるように、フェンス等外構の設計では、特に防犯性や安全性に配慮した設計を検討する。

(5) 一時預かり室の整備

今後の国の制度に対する方針や保護者の就労形態の多様化による保育ニーズを見極めながら、保育所入所児童以外の児童が一時的に保育を受けられるための専用の保育室設置（6人程度）を検討する。

(6) 自然光を多くとり入れた保育室

自然光をとり入れ明るくのびのびとした環境の中で、園児が過ごせる空間をつくり、健康的な子供を育成するための施設を検討する。

(7) 食育への取組の一環として、給食室の場所を子どもが見える場所に造る。

「手に届く給食室」

子どもたちが通る廊下等から見える位置に給食室を作り、ガラス越しに、子どもたちに調理風景を見せることで、食事への興味を持たせ、食について考える習慣や食に関する様々な知識と食を選択する判断力を楽しく身に付けさせる施設を検討する。